



口腔機能発達不全症・口腔機能低下症の診療を実施している医院の事例を紹介します

乳幼児・学齢期には適切な獲得、高齢期には維持・向上のため口腔機能に対する生涯を通じた歯科医療による介入が必要です

▶まずは口唇閉鎖不全に着目

「お口ぽかん」は全ての口腔機能と関連

全ての口腔機能の発達に悪影響を及ぼす口唇閉鎖不全の小児の有病率は30.7%と報告されています。しかし、多くの保護者は自分の子どもが「お口ぽかん」であることに気づいていません。保護者には「お口ぽかん」を指摘するだけでなく、口呼吸はなぜ悪いのか、治療の必要性や内容についても具体的に説明し、保険で対応できることも伝えたいと思います。口腔機能は本来、生活や遊びの中で獲得・発達しますが、近年の軟食傾向や体を動かす遊びが減るなど、子どもを取り巻く生活環境の変化も口腔機能発達不全症の原因と考えられています。まずは子どもの姿勢や食生活、特に口周りをしっかり観察し、姿勢や食生活についてのアドバイスをを行い、口腔周囲筋の筋力が不足している場合は口腔機能訓練を行います。正しい姿勢や食べ方、鼻呼吸は生涯の健康のためにも全ての子どもに伝えたいですね。



友の会会員専用ページでは浜野先生ご執筆の冊子をご覧いただけます。



千葉歯科医院
(東京都大田区)

院長 浜野 美幸 先生

予防に力を入れて診療しています。大学院で小児の成長発育を研究していたこともあり、口腔の形態だけでなく、機能もみることを長年続けてきました。当院では、歯科医師、歯科衛生士、歯科助手がそれぞれの立場で、待合室にいるときから帰るときまで、健康を増進するため何をサポートできるかを考え、みんなで取り組んでいます。子どもたちにアプローチすると素敵なりアクションがあり、やりがいを感じています。ぜひ多くの方に取り組んでいただきたいです。

口唇閉鎖不全になると・・・

- ✓ 口腔機能発達不全になる（上手に食べられない、発音が不明瞭、口呼吸、表情が乏しくなる）。
- ✓ 口呼吸になることから体の健康に悪影響がある。
- ✓ 子どもは成長期にあるため、歯列や顎の形態に悪影響を及ぼし、歯列・咬合の異常に繋がる可能性がある。

口唇閉鎖不全と関連する項目

- ✓ 姿勢：猫背で首が前傾
- ✓ 顔貌：表情が乏しい
- ✓ 呼吸：口呼吸
- ✓ 歯列・咬合：異常が見られることが多い
- ✓ 咀嚼：音を立てて食べる、食べるのが遅い、噛まずに丸のみ
- ✓ 舌位：低位舌
- ✓ 嚥下：異常嚥下



院内システム

【対象患者】

- 全ての患児に以下の項目を実施
- 口腔機能問診票（図1-1）の活用
- 診察の中で口腔機能を積極的に診る
 - ・ 行動観察（図1-2）、顔貌、口腔周囲の観察、口腔内の診察
 - ・ 医療面接

主訴に対する処置と並行して行う

【口腔機能管理】

- 1か月に1～2回実施
- 「TSUMUGU（東京臨床出版株式会社）」を活用してトレーニング指導・管理（図2）
- 口唇閉鎖不全の指導・トレーニング（表1）
- 口腔機能検査（口唇閉鎖力・舌圧）

図1 診療台以外での気づき

HPで問診票ダウンロード

口腔機能問診票

Point! 診療台に座るまでに確認できる所見がある

図1-1 口腔機能問診票

図1-2 待合室での様子

図2 TSUMUGUを利用した管理の様子

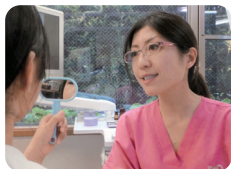
子どもたちのため未来のために TSUMUGU
【監修】全国小児歯科開業医会（JSPP）

図3 舌圧検査の様子

動画 JMS舌圧測定器 患者向け使い方

表1 口唇閉鎖不全の指導・トレーニング（負担の小さいものを組み合わせて行う）

- ✓ 姿勢の改善：立位と座位の良い姿勢を説明、姿勢が悪いことによる弊害を説明（舌位、口唇位が悪くなる。咀嚼・嚥下がよくできない）
- ✓ 食事の改善：写真やビデオを撮影してもらい、食環境、食べ方（口唇で捕食、前歯で咬断、一口量、口を閉じて咀嚼、正しい嚥下、食具の使い方、飲み物）をチェックして改善点を指導
- ✓ 口唇閉鎖運動訓練：うがいトレーニング（生活の中でできることを指導）
- ✓ 咀嚼・嚥下訓練：ガムトレーニング（口を閉じる意識、筋力とバランスを整える、唾液の嚥下）
- ✓ 舌圧改善訓練：ポッピング・ペロべったん、ペコぱんだ、ガムトレーニングのガムのぼし
- ✓ 遊びの中でできるトレーニング：風船遊び、吹き戻し、にらめっこ



幼児のうがい練習、食べ方指導、MFTの応用など幅広く勉強を続けながら指導しています。ガムトレーニングは好きなガムを用いるので、子どもたちはおやつを食べる感覚で楽しく取り組んでいます。咀嚼・嚥下や舌挙上をトレーニングすることができます。指導時は、保護者や弟妹が同室し家族全員で取り組んでくれることが多く、口腔機能を育成しようという姿勢が家族に伝わる良い効果があると思っています。ブラッシング指導のときでも、お口閉じてる？ペロどうかな？と声をかけて思い出してもらえようようにしながら子どもたちに接しています。（歯科衛生士 大坪 万莉さん）

※2024年11月現在の情報です。

